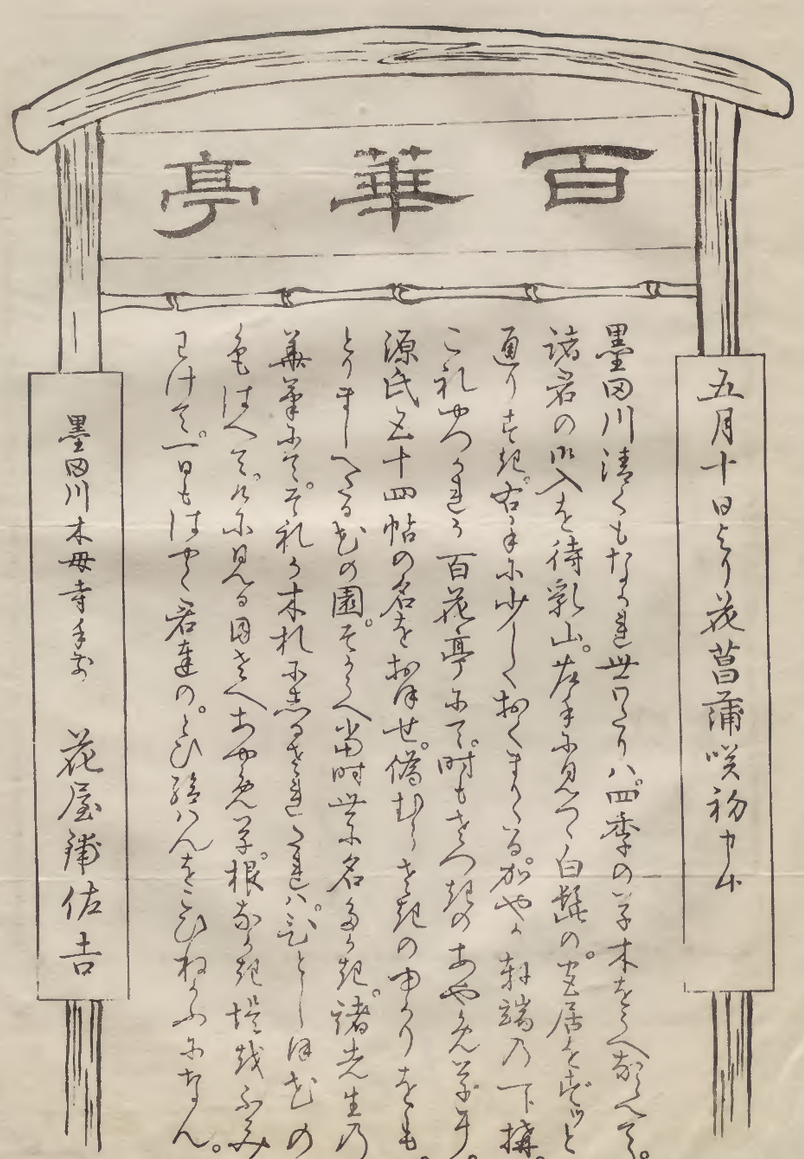


百華亭

五月十日より花菖蒲咲初ヤ

墨田川清くもなるまで世ひくりハ四季の草木をうへおくて。諸君の出入を待乳山。庵手に見えて白鷺の空居をぞゆと通りを見。右手に少しくおくまくるがやゝ軒端の下掛。これやつるまう百花亭にて。時もさつ頃のあやめ草手。源氏五十四帖の名をおほせ。偽むりを見のゆうりをも。とりましてるむの園。そうへ当時世に名なる見。諸先生の兼筆にて。それう木れにしるをきてきハ。元としほむの色はへて。ゆふ見る国をへあやめ草。根なる見堤我ふみ見けて。一日もはやく君達の。とひ給ひんをこひねうふにちん。

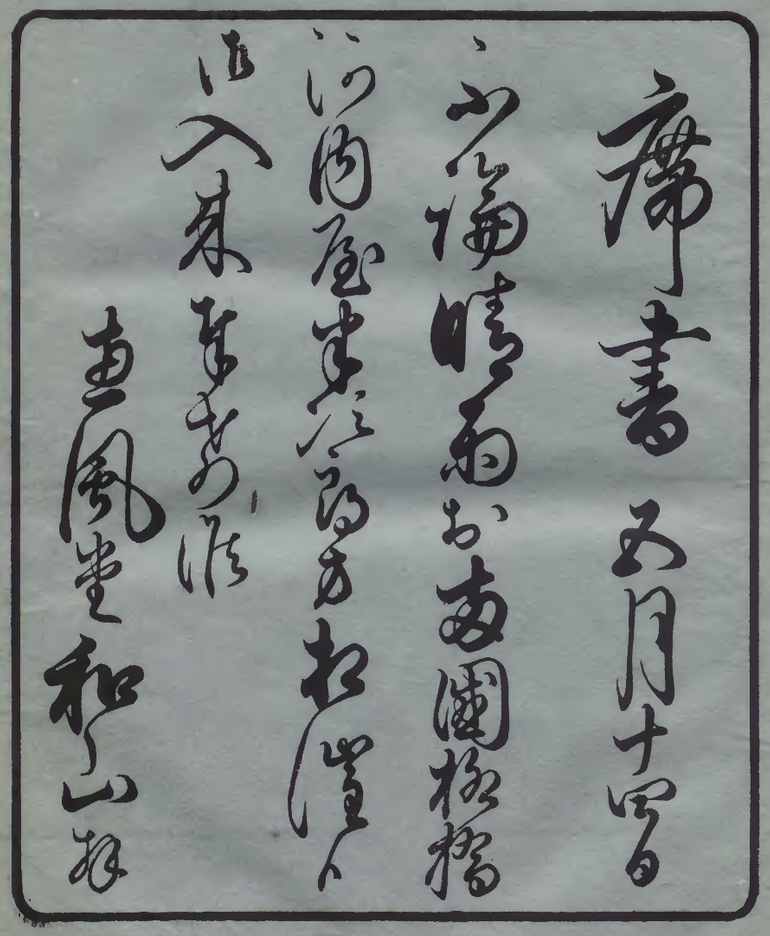
墨田川木母寺手前　花屋蒲佐吉

席書

五月十四日

小海晴雨お夜園松楢

いつ内屋東にて為方お出入

入来をまちの酒

春風堂和山拝